

もとづく地域診断と実施及び評価の事例

(1) PRECEDE (診断部分)

中村譲治^{*}、筒井昭仁^{***}、堀口逸子^{*}、小林郁^{**}

(^{*}福岡予防歯科研究会、^{**}福岡歯科大学予防歯科学教室、^{***}福岡県杷木町役場保健福祉課)

目的：地域保健法の改正に伴い保健所、市町村の機能の見直しが迫られており、地域診断と保健計画の策定、その後の評価は必須の機能である。L.Greenらによって開発されたPRECEDE-PROCEEDモデルはヘルスプロモーションの理念を基盤としており地域の診断と政策づくり、実施及びその評価に有用であるといわれている。しかしながらわが国において地域保健に実際に応用した例は少ない。演者らは1993年よりある町を対象にこのモデルの理論的枠組みにできるだけ忠実に地域診断、保健計画の策定、実施、評価を行っている。今回このモデルの日本における展開の有用性の検討を行ったので診断、計画・実施、評価の各段階の経過と共に報告する。

対象及び方法：対象地域は1992年時点で福岡県下で乳歯う蝕所有状況がワースト1 (dft=5.6)であった杷木町である。この町は県南部に位置する人口約9,600の農業を主産業としている。3歳児の乳歯う蝕に関連する諸問題の解決をテーマとし、診断に必要な情報を得るため3歳児の母親対象にPRECEDE-PROCEEDモデルをベースに質問紙を作成し調査を行った。また比較対象のために乳歯う蝕が少ない福岡市の3歳児(dft=2.1)の母親に対しても同様の調査を行った。

診断のプロセス：1. 地域住民、歯科開業医、行政関係者を対象に事例的調査を実施し社会診断を行った。2. 科学的な裏付けのある乳歯う蝕の要因を選出し保健行動と環境因子のボックスに分類した。次にう蝕に関する間接的な関連項目をKJ法によって整理し、それらをモデルの各ボックスに振り分けて質問紙を作成し調査を行った。3. 疫学診断の結果を基に関係者と協議し3歳児のう蝕を3年後に3本にするという目標値を設定した。4. 質問紙調査の結果から解決すべき保健行動の優先順位と目標値を関係者と協議し、50%の母親が1歳までに断乳を完了させることと、1歳から3歳までの幼児の80%が継続してフッ素塗布を受けることを設定した。5. 決定された解決すべき保健行動に関係する現在実施中の健康教育プログラムを診断した。6. 母子を取り巻く地域のグループを洗い出しその組織診断を行った。7. 各段階の診断を基に強化、準備、実現の各要因に働きかける健康教育プログラムと環境整備の計画を順次策定した。

結果及び考察：最後の発表の(3) PROCEEDで一括して報告する。

FAX 092-741-8037, e-mail: fspd@comel.or.jp